

8312 国民総生産(GNP)は自由諸国の二位, . . .

国民総生産(GNP)は自由諸国の二位, 自動車の生産台数も男性の長寿も世界の一位・・・.
後発国として営々と努力してきただけに, 今日の日本人の数量信仰には無理からぬものを感じる. しかし, まさにそれこそが, 二十世紀文明の呪術(じゅじゅつ)であり, おとし穴であろう.

永井道雄『教育はどこへ』

[許容訳例]

Second in gross national product among the free nations, first in the world both in the number of cars produced and in the male life span ... I feel it natural that the Japanese of today should have an excessive faith in figures, seeing that they have been making such strenuous efforts as a "late-starting nation." Yet this very faith is probably a spell, a trap laid by civilization in the twentieth century.

[翻訳例]

With a gross national product that ranks second in the Free World and figures for car production and male longevity surpassing those of any other nation, it is hardly surprising that the Japanese, having worked so strenuously to catch up with the West, should today tend to worship figures. Yet this very faith is, I suspect, a spell cast by, a trap set by twentieth-century civilization.

■国民総生産(GNP)は自由諸国の二位, 自動車の生産台数も男性の長寿も世界の一位・・・.
後発国として営々と努力してきただけに, 今日の日本人の数量信仰には無理からぬものを感じる. (8312)

★「国民総生産(GNP)は～の二位」は second in gross national product とか a gross national product that ranks second; with a gross national product second など.

★「自由諸国の」は among the free nations とか in the Free World でしょう.

★「自動車の生産台数も」は in (the number of) cars produced ですが, number の代わりに figure を使ってもかまいません.

★「男性の長寿」は the male life span とか male longevity でしょう. ついでですが, male の代わりに man; men とすると, '人類とか人間の' という意味になりますから, ここは習慣的によく使う male がいいと思います.

★「～も世界の一位」は first in the world both in A and B とか, 上で使ったように that rank first in the world も可能です. また, 同じ表現を避けたいので, that surpass (あるいは surpassing) those of any other nations とすることができそうですが, それには, ここ全体の文体と関係します.

★「後発国として」の「後発国」は普通使わない言葉です。ただ、筆者はこの言葉によって日本の位置をはっきりさせようとしたのだと思われるので、引用符で囲って"late-starting nation"とするといいでしょう。「として」には as が使われますが、ちょっと弱い感じがします。as は、たとえば、He has been working as a teacher since 1980.は、要するに His profession is that of a teacher. くらいの意味で、As a teacher, he has been working hard. という意味にはならないのです。つまり、as だけでは、ここでは物足りないというよりは、曖昧になってしまうような気がします。それで、「後発国として」を to catch up with the West とか to make up for their late start と言い換える方がいいと思います。

◆such とか so の感覚

「営々と努力してきた」は they have been making strenuous efforts…とか they have worked strenuously ですが、どうしても such を加えて they have been making such strenuous efforts…とか so を加えて they have worked so strenuously としたくなります。つまり such とか so を入れないと相手がその事情を了解してしまっているような感じになってしまうのです。新しい事実を提供してそれに注意を喚起して強調したい場合には such とか so が必要ということです。

★「だけに」は seeing that…でもいいと思いますが、ここは With…で始めることも出来ます。下の「文技巧に関して」で述べます。

★「今日の日本人」は the Japanese of today でもいいですが、この「今日の」は単に「今日の」ではなく「後発国」つまり「遅れをとっている」という意識が強いので、「今日の」は日本人」ではなく「(日本人の) 数量信仰」の方に懸かっている、つまり「日本人の今日の数量信仰」ととらえた方が論理性をはっきりさせることができると思われます。

★「(日本人の) 数量信仰」は have faith in figures ですが、もう少し読者の理解のために親切に補うとすれば、have faith in figures だけではマイナスの意味にはならないので have an excessive faith in figures のようにした方がいいでしょう。この日本文全体の内容は、日本人が既に感じているか了解していることを纏めているわけで、文章の構造を順に追っていくと必ずしも論理的に結びつきが一貫したものとは言えないような気がします。結局、言わんとしていることは、後発国だという意識があって、まだまだ追いつかないのかというあせりが常にあるところから、世界何位だというような数値信仰が生まれてきた、ということでしょう。その意味でマイナスの意味が出るように excessive を加えたいのです。あるいは excessive を避けて faith の代わりに worship を使って have a tendency to worship figures とか tend to worship[revere] figures[statistics]とか。あるいは have a reverence for figures としてもいいでしょう。

★「～には無理からぬものを感じる」ですが、英語ではどうしてもこのこの部分を前に持ってくる必要がありますが、I think it (is) natural that…と言うと、かなり自信を持っている時に使います。日本語で「感じる」が使われているからというわけではなく、「確信はないがそう思う」というニュアンスでは feel を使った方がいいです。したがって、I feel it (is) natural

that...should...とか It is hardly surprising that...とかを使うべきです.

●文技巧に関して

「国民総生産(GNP)は自由諸国の二位, 自動車の生産台数も男性の長寿も世界の一位・・・. 後発国として営々と努力してきただけに,・・・」は, 日本語の順序通り Second in gross national product among the free nations, first in the world both in the number of cars produced and in the male life span ...とすることもできますが, 英語として「・・・」は使いたくありませんし, 前後の関係性がはっきりしません. 「・・・だけに」に焦点を当てると, たとえば, With an IQ of 150, it is no wonder that he should have been first in his class. とすれば, Since he has ... 「・・・だけあって」と関係性が明瞭になります.

■しかし, まさにそれこそが, 二十世紀文明の呪術(じゅじゅつ)であり, おとし穴であろう. (8312)

●逆接(しかし)

「しかし」は but ですが, 文の先頭にする場合には However とか Yet がいいです.

★「まさにそれこそが」は, ここでは this very faith でしょう. この this は「自分が今述べたこと」を指しています. なお, that も使えますがちょっと感覚が違います. this を使うと自分が今書いた文章を思い浮かべている感じになりますが, that の場合は日本人を自分の外にいるものとして扱っていることになります.

★「二十世紀文明の～」の「の」は動詞を内包させることの出来る便利な格助詞で日本人は内包する動詞を思い描きながら解釈できます. しかし, 英語という言語は, 冠詞や前置詞などの使い方を細かく区別して, 一つ一つ具体的に選択してきちっと決めていけなければならない. 日本人の目からするとしつこいくらいははっきりと言葉の意味を指し示して行くわけです. それに比べて日本語の場合は, 前後の関係から意味をはっきりさせていくことが多いと思われ. この文章を訳す上でも, その違いがはっきり出てきます. ここの「二十世紀文明の呪術」という場合, 日本語では簡単に「の」で済みますが, 英語に訳す場合 of では意味が曖昧になります. つまり, 「二十世紀文明」と「呪術」がどういう関係にあるのか, それをはっきり掴んでから前置詞を選ぶなり, あるいは日本語にない言葉を補ったりしないと意味が伝わらないのです. そこで「二十世紀の～」ですが, ~ of the civilization in the twentieth century と, in を使うのなら the civilization の the はとらなければならない. というのは, in を使う場合, 厳密な意味では in the twentieth century は前の civilization には懸からない, つまり qualify していないからです. だからと言って in の代わりに of を使うと the civilization となりますが, 上で述べたように, 英語としては曖昧になってしまいますから of を具体的に別の言葉, つまり, 「の」に内包されている動詞を加える必要がでてくるわけです. そうすると, ~ cast by, ~ laid[set] by civilization in the twentieth century と in を使うことが出来ます. なお, in the twentieth century を使わないで by twentieth-century civilization とすることも出来ます.

★「呪術(じゅじゅつ)」は a spell です. the spell にすると, すでにみんなが了解している

ことになってしまいます。つまり、何か呪術かと聞かれた場合の答えのような感じになってしまいます。なお、動詞との組み合わせは to cast spell です。

★「おとし穴」も a trap です。動詞との組み合わせは to lay[set] a trap です。

●文技巧（Aであり，B）

「呪術（じゅじゅつ）であり，おとし穴であろう」は，呪術とおとし穴のどちらかと言っているのではなく，言い方を変えているだけですから，こういう場合には or も and も入れないで，コンマだけで並べるのが一番いいと思います。

★「であろう」は probably でも意味は通じると思いますが，ちょっと抵抗があります。probably という言葉は，まだ確認していないけれど確認しようと思えば出来る，つまり，自分の意見ではない場合に使います。たとえば，Where is Mr. Tanaka today? (=Why hasn't Mr. Tanaka come?)--He is probably ill. (=I think he is ill.)というように使います。ここはそうではなくあくまでも著者の意見ですから抵抗を感じるのです。こういう場合は I suspect を挿入するといいと思います。社説のようなものなら I を使わずに one suspects の方がいいかもしれません。